

浜松市楽器博物館について

中川 真

平成7年(1995)に日本で初めての公立楽器博物館として開館した浜松市楽器博物館は、単に楽器の蒐集、収蔵、修復、記録、展示といった通例の博物館業務を超えて、音楽文化の多様性、深さを様々な媒体(CD、DVD、図録)やイベント(レクチャーコンサート、イブニングサロン、歴史・文化講座、ワークショップ、移動博物館、ドキュメンテーション)を通して多角的に情報を発信している点で、世界でも稀有な楽器専門の博物館です。開館時には計700点であった所蔵楽器も現在では3300点となり、うち1300点が常設展示されています。この博物館のポリシーは「楽器に命を与え、生きた博物館を創造する」というものです。小泉文夫音楽賞委員会は、上記の膨大な諸活動とともに、このポリシーが生き生きと実現されている点を高く評価しました。

楽器博物館はヨーロッパで19世紀に登場しましたが、所蔵の中心はヨーロッパの楽器であり、非ヨーロッパの楽器は民族楽器という枠組みのなかで周縁に位置づけられました。その観点は比較音楽学の初期の考え方と関係あるといえるでしょう。また、非ヨーロッパ地域にある楽器博物館でも自国・自民族の楽器展示が中心で、それ以外の楽器の収集は極めて低調となっています。つまり収集方針に自国あるいは自文化中心的な偏向が内在しているのです。浜松市楽器博物館はそういった従来の傾向とは大きく一線を画し、文化人類学的な認識にたつて自文化・異文化を問わず、相対主義的な目線からできる限り平等に扱おうとしています。何千という部品からなる複雑な楽器も、たった1本の竹でできた楽器も、文化の産物としては同等の価値をもつという視点です。浜松市楽器博物館はそういう視点をもつ世界で初めての楽器博物館であるところに価値があります。

しかし、そのためには楽器の背後にある宇宙観、宗教、科学技術、自然環境などを説明する必要があります。コンサートやワークショップ、講座やCD、DVDといった多彩なアウトリーチ活動は、この要請に従って次から次へと誕生していったのです。楽器を切り口として、文化や経済、さらには世界や環境へと私たちの眼差しを広げ、壮大な物語へと導いていってくれる点で、この博物館の存在意義、奥深さが認められます。この博物館じたいがひとつの「宇宙」といっても過言ではないのです。

一連の諸活動は社会から高く評価され、なかでもCD第38巻「イギリス・ソナタ -ブロードウッド・ピアノ(“English Sonata on Broadwood Piano”) 新世紀の響き」が平成24年度の文化庁芸術祭レコード部門大賞を受賞したのは特筆に値します。1802年製のフォルテピアノによる演奏によって、デュッセック(Dusseck)やベートーヴェンらの作品に別の輝きをもたらされました。ビジネス的な観点からすると二の足を踏むような、博物館ならではの文化的冒険がここにあります。また、平成26年度には嶋和彦館長の博物館研究の報告が日本博物館協会(Japanese Association of Museums)活動奨励賞を受賞したほか、平成25年

の‘The Best in Heritage Meeting’（ドゥブプロブニク）、平成26年のCIMCIM年次会議（ストックホルム等）の講演に招かれるなど内外で大きな注目を浴びています。

博物館というハコモノを拠点に、物質文化としての楽器展示と同時に、極めて多様多彩なチャンネル・媒体を駆使し、精神文化としての世界の諸民族の音楽の特質を明示し、ここを訪れる一般の市民と専門的な研究者に常に刺激を与え続けている点で、小泉文夫音楽賞の受賞にふさわしいといえます。そして、その充実したプログラム形成には、館長である嶋和彦氏ならびに有能なスタッフ、そして設置者である浜松市の貢献が大きいと考えられます。

浜松市楽器博物館略史

1995年（平成7年）

オープン特別展「竹の楽器・ひょうたんの楽器」

1996年（平成8年）

アジア・アフリカ展示室公開

1997年（平成9年）

展示室ガイドツアー開始

1999年（平成11年）

パソコン楽器ミュージアムとホームページ公開

2000年（平成12年）

市内小学校への移動楽器博物館開始

開館5周年特別展「楽器誕生！」

入館者50万人

2001年（平成13年）

収蔵品ジャワ・ガムランを使用して初の実技ワークショップ

2002年（平成14年）

友の会設立

2003年（平成15年）

特別展「楽器と20世紀」

2006年（平成18年）

特別展「弦楽器の名器たち～大阪音楽大学サントリー弦楽器コレクション展～」

2007年（平成19年）

入館者100万人

2008年（平成20年）

イヴニングサロンコンサート開始

2010年（平成22年）

開館15周年記念企画「親指ピアノ・フェスティバル」

2011年（平成23年）

特別展「人形たちのシンフォニー」 大阪音楽大学音楽博物館と共催

2012年（平成24年）

特別展「埋もれた楽器たち～古代への音浪漫～」

東南アジア民族音楽会議 ラオン-ラオンLaon-laon にて活動を発表（台北）

入館者150万人

2013年（平成25年）

コレクションシリーズCD.No38「イギリス・ソナタ～ブロードウッドピアノ・新世紀の響き」が文化庁芸術祭レコード部門大賞受賞

ザ・ベスト・イン・ヘリテイジ国際会議にてCDプロジェクトを発表（ドブロブニク，クロアチア）

2014年（平成26年）

ギャラリートーク開始

特別展「風に歌う、風に響く～バグパイプの世界～」

CIMCIM国際会議にて活動を発表（北欧）

（大阪市立大学大学院教授）